


2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立花尾小学校】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	北九州市立花尾小学校 全学年 19クラス 578名 (ゴールボール体験学習：6年生 3クラス 97名) (ボッチャ体験学習：5年生 3クラス 108名)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 (パラリンピアンとの交流を通して) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	ゴールボール選手の体験談を聞き、目が見えない状況で生活する苦労や工夫を知るとともに、障害をもった方たちと共生する社会について考える。 これまで体験したことのないパラスポーツに触れることにより、新たなスポーツへの興味・関心を広げることができるようにする。
5 取組内容	<p>I オリ・パラ講演会・ゴールボール体験 熊本県出身でパラリンピックゴールドメダリストの浦田理恵選手(シーズアスリート所属)との交流学習</p> <p>1. パラスポーツの魅力やスポーツを通じて得たものについての体験談を聞く。 ・全校児童を対象に、講演会を開き、パラリンピックゴールドメダリストの浦田理恵選手の話聞く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【講話の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選手が取り組むゴールボールの説明 ・映像に解説を交え、ロンドンオリンピックで体験について ・視覚を失う中で、「得たもの」について ・ゴールボールとの出会いやパラリンピックを通して感じた「夢をあきらめない強い気持ち」について </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div>

2. 選手とゴールボールで交流する。

・浦田選手の解説の下、実際にアイシェードを着用して。ゲームを体験しながら、選手のすごさを体感していった。



【ゲームの実演と練習】



【ゲーム体験】

Ⅱ ボッチャ体験学習

東京2020パラリンピックのトーチの見学とリオパラリンピック銀メダリストの木谷隆行選手との交流学习

1. パラリンピックトーチの紹介ビデオを流した後、パラリンピックトーチを実際に見学する。その中で、東日本大震災の仮設住宅の材料が再利用されていることを知り、パラリンピックの意義について知る機会をもつ。



2. パラリンピアンへの講話を聞く。

・リオパラリンピックの体験談を写真映像とともに聞く。パラスポーツの魅力やスポーツを通じて広がった人間関係や文化交流についての話聞く。



3. 選手とボッチャで交流する。

・木谷選手の解説の下、実際にゲームで友達と対戦し、ゲームを体験しながら、ゲームの楽しさを味わい、木谷選手との決勝戦を見ながら、すごさを体感していった。



6 主な成果

ゲームを通して、視覚や運動機能を失ったときの動きの難しさを実感し、「選手の凄さ」を感じている感想が多くあった。また、障害者と一緒に関われるスポーツを知ったり、対戦したりする中で、そのスポーツの楽しさや魅力を実感することができた。

また、体験的な活動によって感じたことを、これまで学んだ点字などの日常生活のことと結んで感想を書く子どもも多くいた。選手の思いに触れ、「パラリンピックを応援したい」など、スポーツを支える視点からの感想も見られ、子どもがパラスポーツをより身近に感じていたことが成果と感じている。

7実践において工夫した点 (事業の特色)	本校では、パラリンピックに着目し、スポーツを通じたインクルーシブな社会の実現に向けた「共生」をテーマとして取り組んだ。SDGsでの取組で連携している企業と共同しながら、日本で開催されるオリンピック・パラリンピックを「支える」という視点で子どもが身近に感じられるような取組みも工夫した点である。
8主な課題等	選手（パラリンピアン）との交流など、イベント的な活動と日常での学習や取組を関連させ、今後のカリキュラムに明確に位置付け、継続していけるようにすることが課題である。そのために、パラスポーツの体験活動を、学校で取り組めるような体制や状況を構築していくことが課題である。（体育科学習との関連・校内の環境整備）
9来年度以降の実施予定	この2年間の取組を、本校のカリキュラムに位置付け、今後も継続していきたい。また、本年度、試行的に体育科学習と関連させ、パラスポーツである「ふうせんバレーボール」を4年生の学習に取り入れる試みをしたが、今後は「シッティングバレー」「ボッチャ」など、ボール運動領域の学習と関連させる実践を積み重ねていきたい。 また、オリンピック・パラリンピックの要素を取り入れたイベント（運動会等）を行ったり、校内にオリ・パラをテーマにしたコーナーを設置したりして、子どもの関心を高め、より身近に感じられるようにしていきたい。